

(2) 自由時間における主な活動

外国語活動を行う者の割合は10～14歳と20～24歳で上昇傾向。テレビゲームなどを行う者の割合は10代では低下傾向だが20代では上昇傾向。海外に観光旅行をする20代の割合が1990年代半ば以降大きく低下。

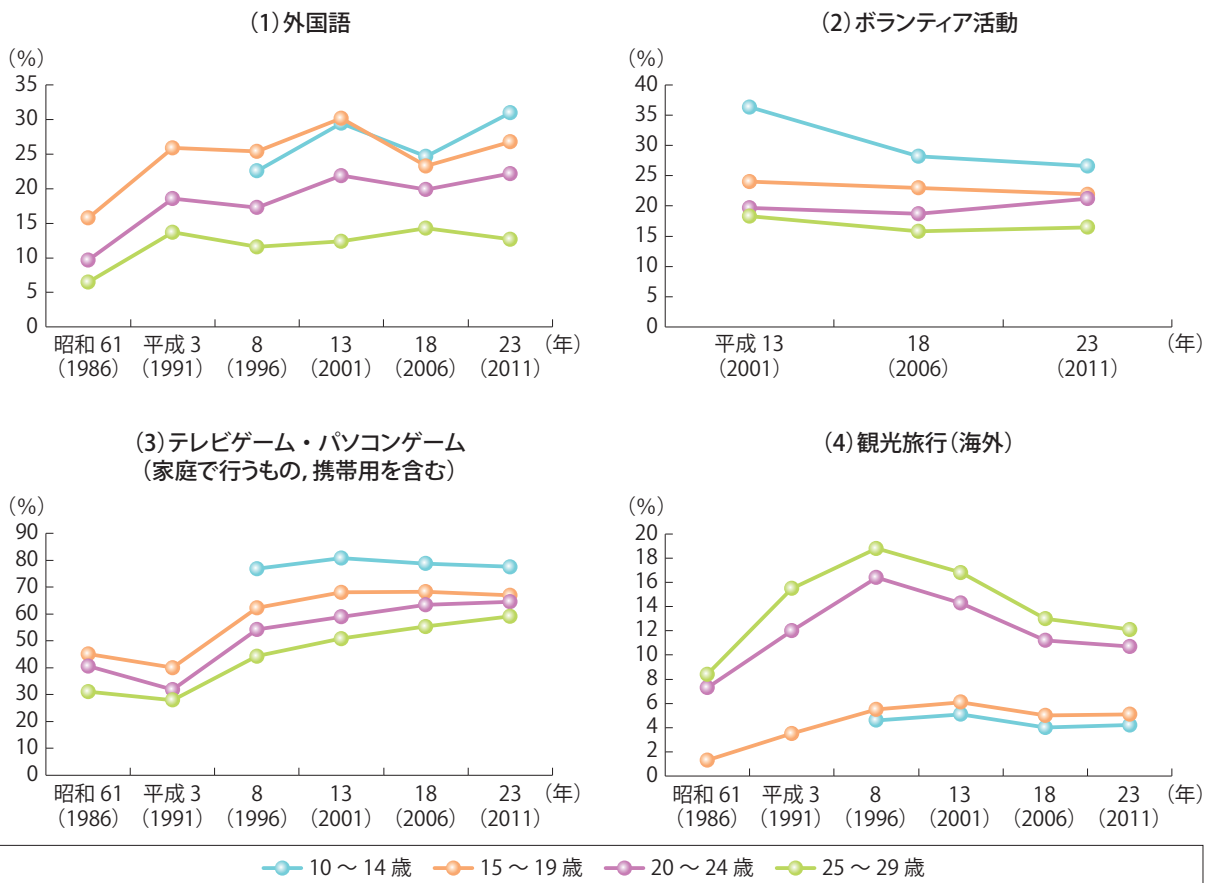
1年間に自己啓発やボランティアに関する活動を行った者の割合をみる。自己啓発として外国語に関する活動を行った者の割合は、1990年代以降、10～14歳と20～24歳では増減を繰り返しつつも上昇傾向にある。15～19歳では2000年代初頭まで上昇した後、低下し、近年再び上昇している。25～29歳ではおおむね横ばいで推移している。平成18（2006）年から平成23（2011）年にかけて、特に10～14歳の者の割合が大きく上昇している。（第1-6-9図（1））

1年間にボランティア活動を行った者の割合は、10代では低下傾向、20代では横ばいないし上昇傾向にある。（第1-6-9図（2））

趣味・娯楽としてテレビゲームやパソコンゲームを行った者の割合は、10代では低下傾向にある一方、20代で上昇傾向にある。（第1-6-9図（3））

1年間に海外に観光旅行をした者の割合は、1990年代半ば以降、10代では横ばいで推移しているが、20代では大きく低下している。（第1-6-9図（4））

第1-6-9図 自由時間における主な活動の行動者率

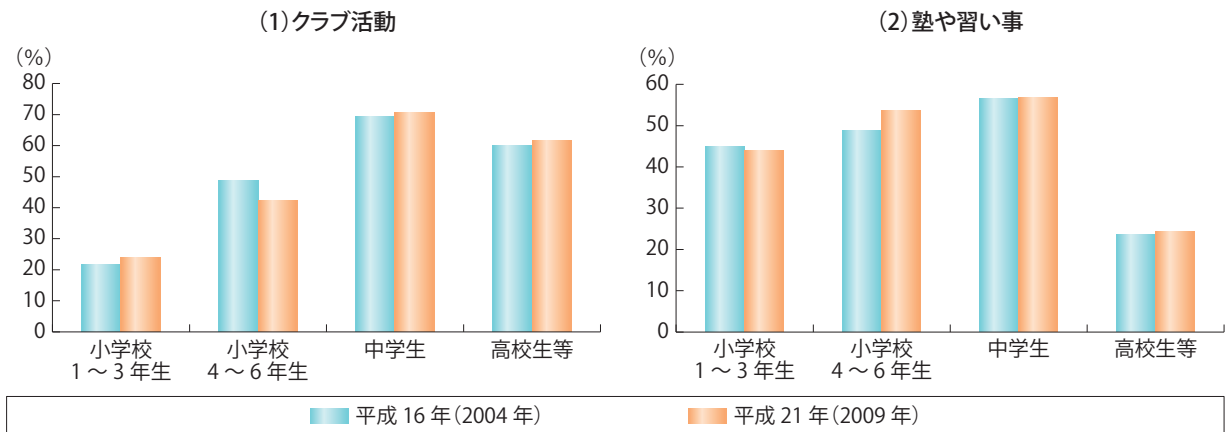


(出典) 総務省「社会生活基本調査」  
 (注) 行動者率とは、1年間に上記活動を行った者の当該属性人口に占める割合。

学校の終業後の状況をみると、地域のスポーツクラブなどを含めたクラブ活動を行っている者は、小学校1～3年生で23.9%、小学校4～6年生で42.3%、中学生で70.7%、高校生等で61.7%となっている。(第1-6-10図(1))

塾や習い事を行っている者は、小学校1～3年生で44.0%、小学校4～6年生で53.6%、中学生で56.8%、高校生等で24.4%となっている。(第1-6-10図(2))

第1-6-10図 終業後のクラブ活動や塾の状況



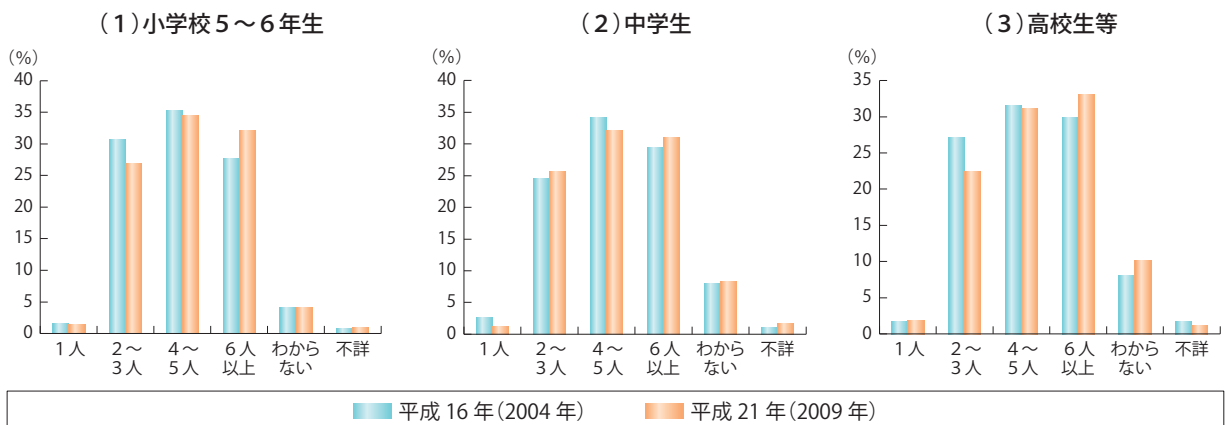
(出典) 厚生労働省「全国家庭児童調査」  
(注) 高校生等とは、高校生と、各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒の合計。

(3) 遊び

一緒によく遊ぶ友達は4～5人。普段の遊び場は「友達の家」が最も多い。

一緒によく遊ぶ友達の人数をみると小学校高学年と中学生では4～5人が最も多く、高校生等では6人以上が多い。過去5年で、6人以上との回答割合が上昇している。(第1-6-11図)

第1-6-11図 一緒によく遊ぶ友達の人数

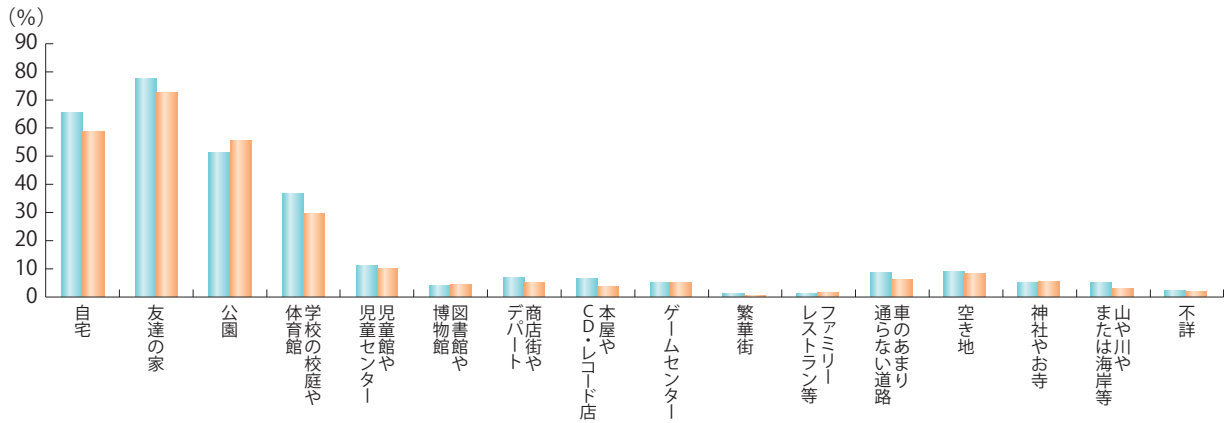


(出典) 厚生労働省「全国家庭児童調査」  
(注) 高校生等とは、高校生と、各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒の合計。

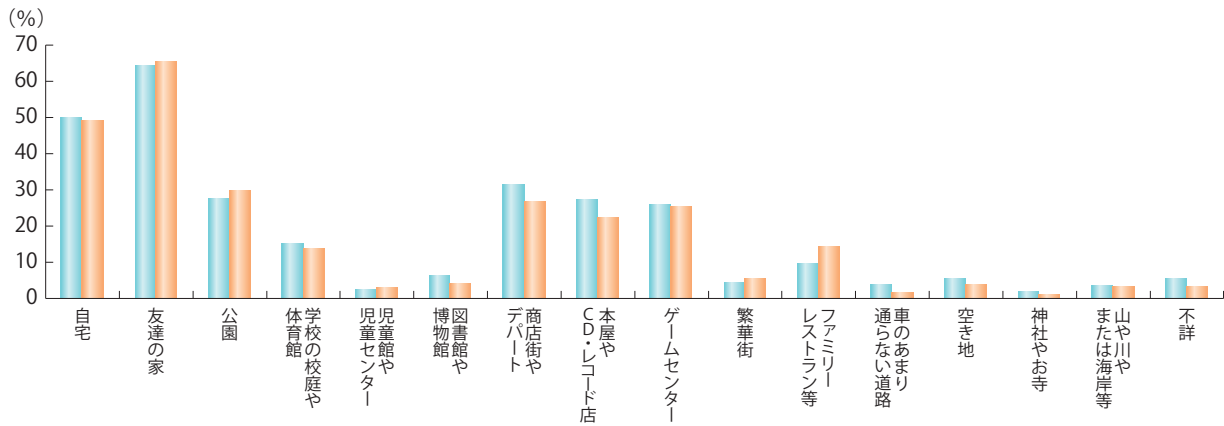
普段の遊び場は、いずれの層でも友達の家が最も多い。次いで、小学校高学年と中学生では自宅が多く、高校生等では商店街やデパートとなっている。5年間の変化をみると、いずれの層でも自宅が減少している一方で、公園が増加している。中学生と高校生ではファミリーレストランの伸びが大きい。(第1-6-12図)

第1-6-12図 普段の遊び場

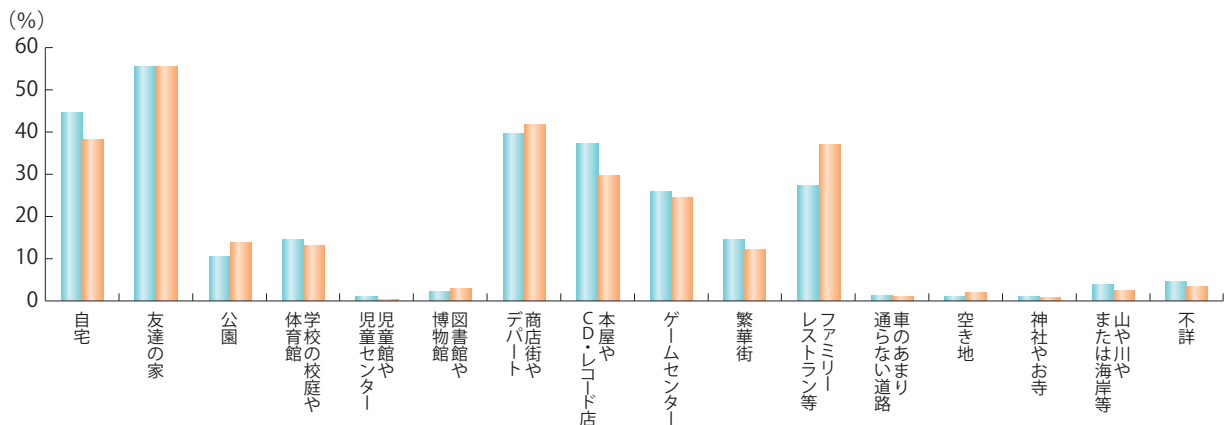
(1) 小学校5～6年生



(2) 中学生



(3) 高校生等



■ 平成16年(2004年) ■ 平成21年(2009年)

(出典) 厚生労働省「全国家庭児童調査」  
 (注) 1. 高校生等とは、高校生と、各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒の合計。  
 2. 複数回答。

(4) 携帯電話・スマートフォンやインターネットの利用

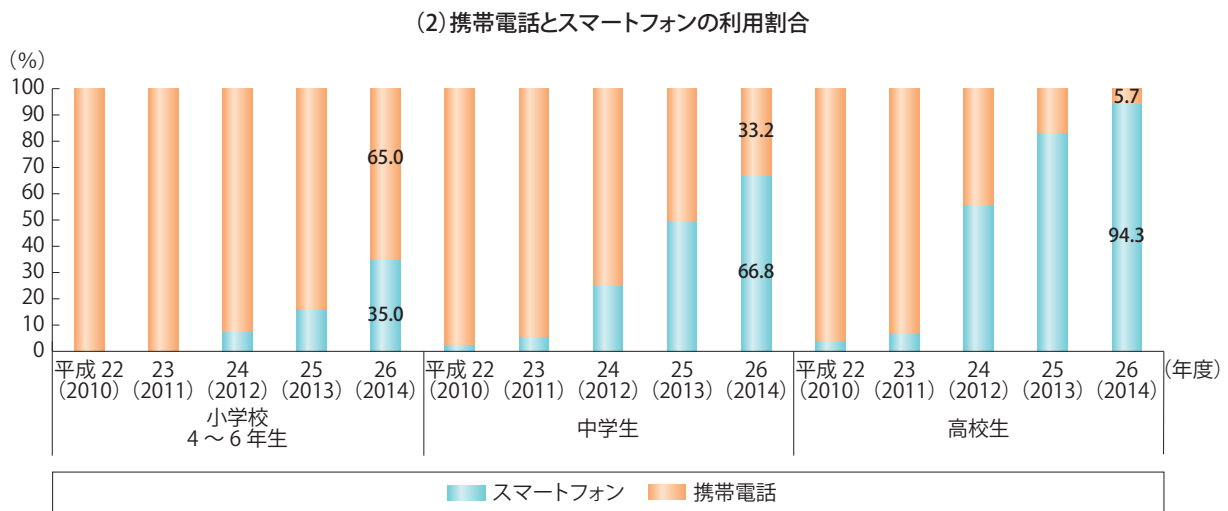
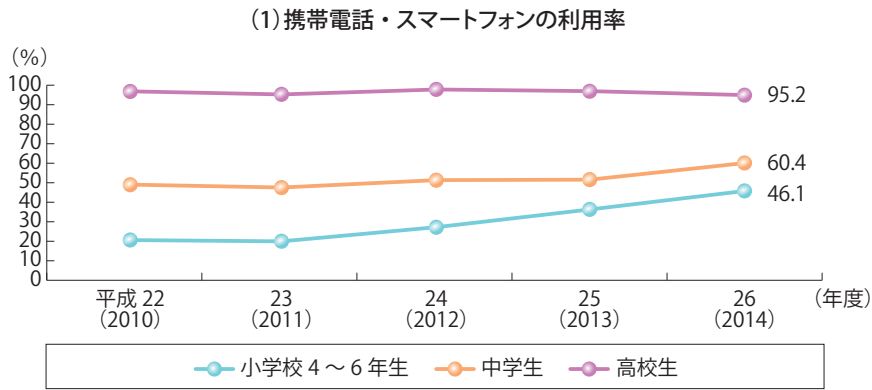
高校生の9割以上が携帯電話・スマートフォンを利用しており、うち9割以上はスマートフォンを利用。小・中学生においても年々スマートフォンの利用割合が上昇。

携帯電話・スマートフォンの利用状況を見ると、小学校4～6年生の46.1%，中学生の60.4%，高校

生の95.2%が携帯電話もしくはスマートフォンを利用している。(第1-6-13図(1))

携帯電話とスマートフォンの利用割合は、小学校4～6年生、中学生、高校生のいずれにおいても、年々スマートフォンの割合が上昇しており、また、年齢層が高いほど、スマートフォンの利用割合が高い。平成26(2014)年では、高校生の94.3%がスマートフォンを利用している。(第1-6-13図(2))

第1-6-13図 携帯電話・スマートフォンの利用状況



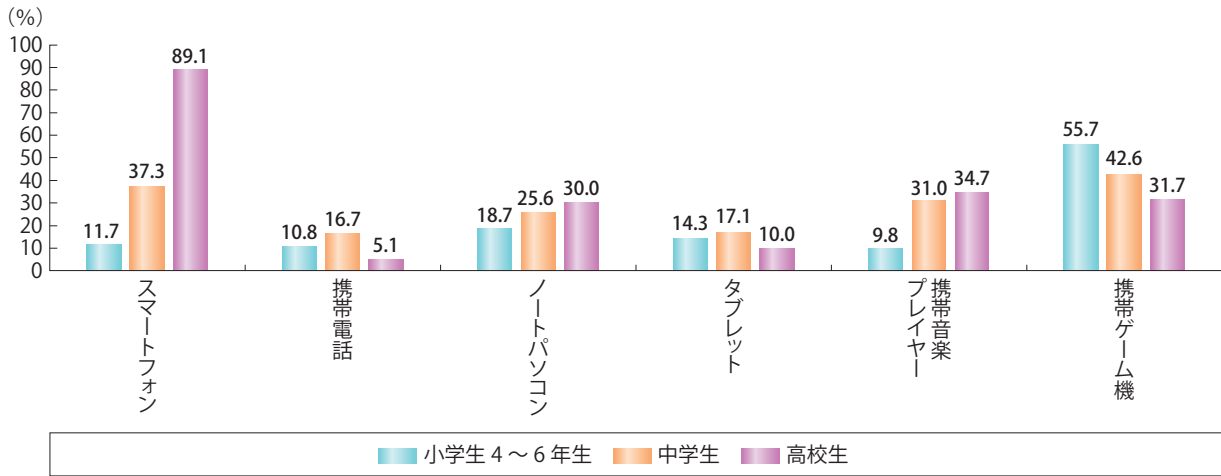
(出典) 内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」  
 (注) (1) は携帯電話かスマートフォンのいずれかを使用している者の割合

携帯電話・スマートフォンに限らず、幅広いインターネット接続機器の利用率をみると、平成26(2014)年度において、小学校4～6年生や中学生では、携帯ゲーム機の利用率が、それぞれ55.7%、42.6%と最も高くなっている。高校生では、スマートフォンが89.1%と群を抜いて高い結果となっている。(第1-6-14図(1))

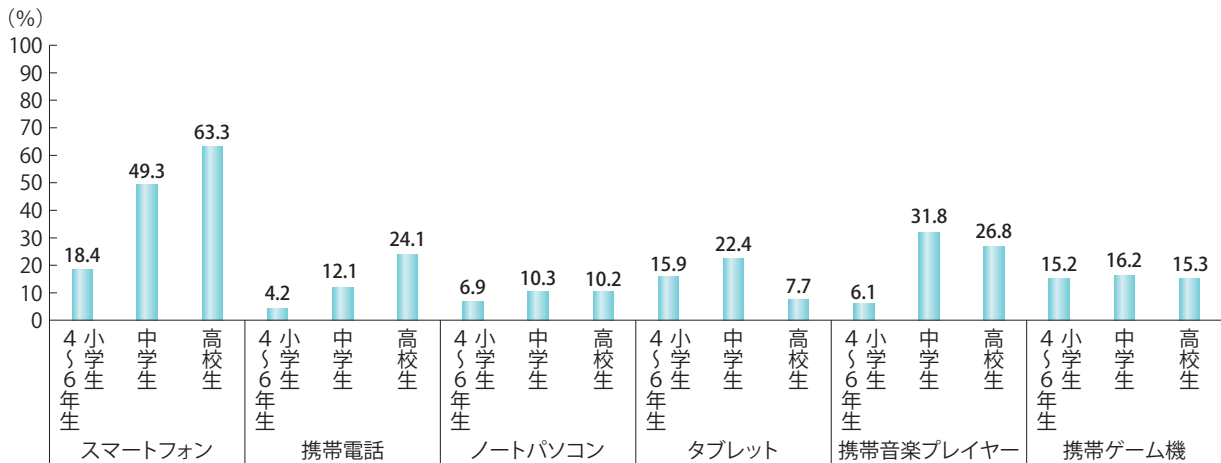
平日1日当たり2時間以上インターネットを利用する者の割合を、利用しているインターネット接続機器別にみると、小学校4～6年生、中学生、高校生のいずれにおいてもスマートフォンが最も高い結果となっている。(第1-6-14図(2))

第1-6-14図 インターネット接続機器の利用状況（平成26年度）

(1) インターネット接続機器の利用率



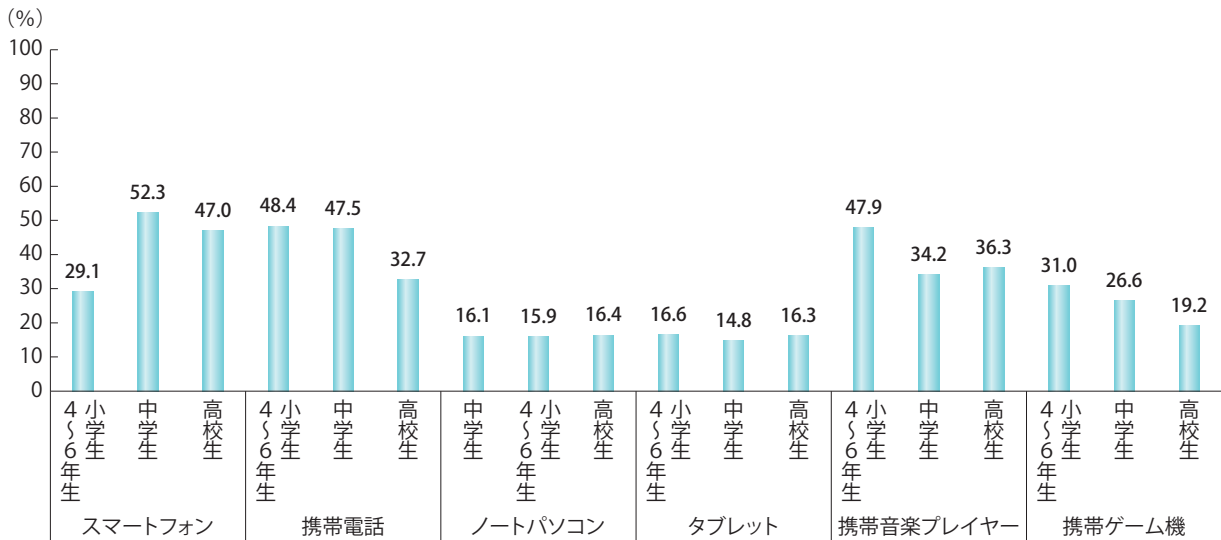
(2) 平日1日当たり2時間以上インターネットを利用する者の割合（機器別）



(出典) 内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」

利用しているインターネット接続機器で、**フィルタリング**やインターネットを使えない機種・設定にするなどインターネット利用に何らかの制限が行われている割合は、スマートフォンでは、小学生は約3割、中・高校生は5割前後となっている。携帯電話では、小・中学生は5割弱、高校生は3割強となっている。(第1-6-15図)

第1-6-15図 機器別のフィルタリング等利用率（平成26年度）

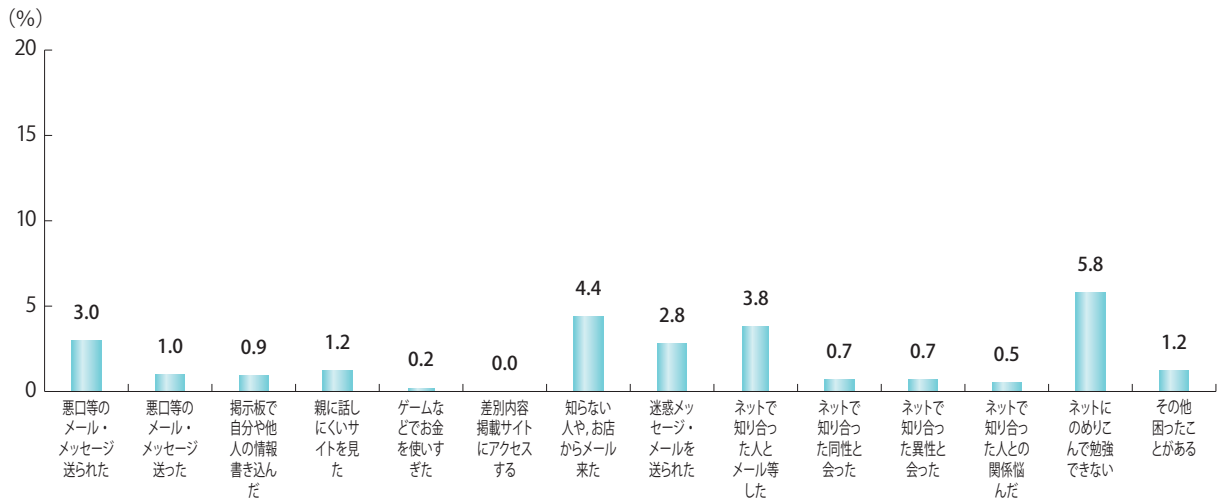


(出典) 内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」  
 (注) フィルタリング等とは、フィルタリングや機種・設定により閲覧を制限することをいう。

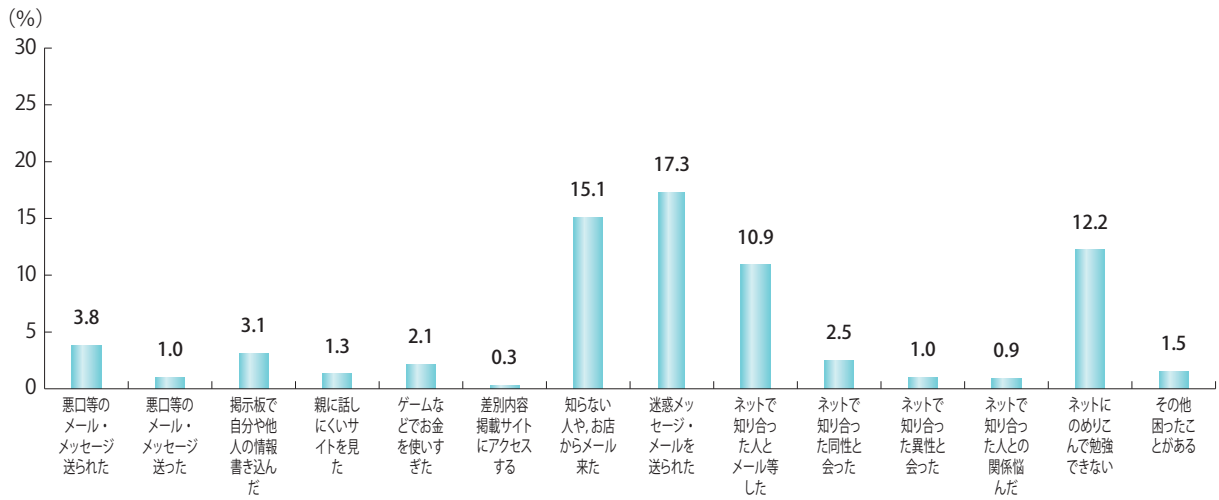
インターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験をみると、年齢層が上がるほど、トラブルなどを経験する割合が高い。全体で最も多い「迷惑メッセージ・メールを送られた」は、小学生では2.8%であるが、中学生17.3%、高校生39.9%と年齢層が上がるに連れ、高まっている。中・高校生では、次いで、「知らない人や、お店からメール来た」、「ネットで知り合った人とメール等した」、「ネットにのめりこんで勉強できない」が多い。(第1-6-16図)

第1-6-16図 インターネット上のトラブルなどの経験（平成26年度）

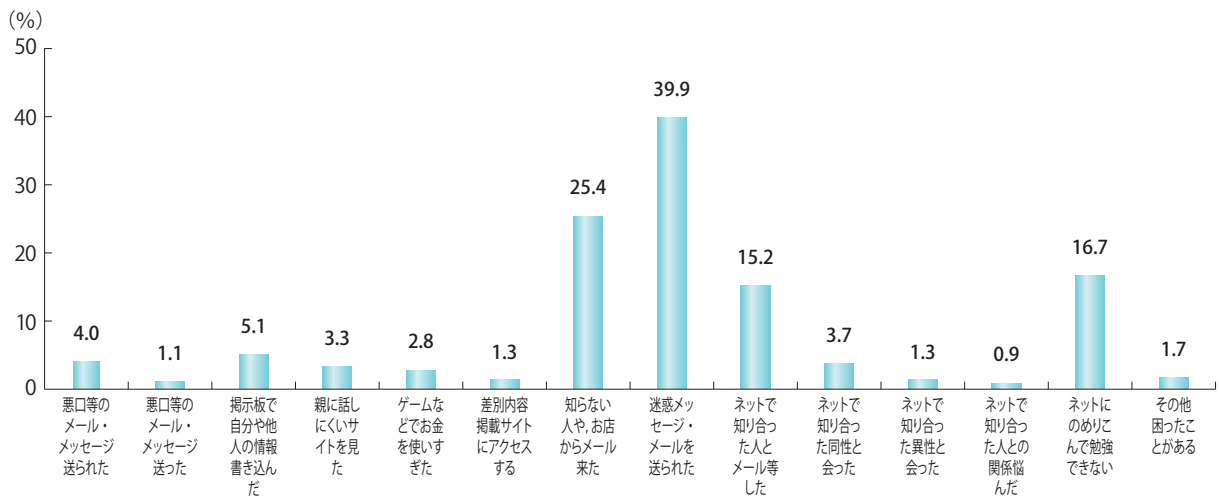
(1) 小学校4～6年生



(2) 中学生



(3) 高校生



(出典) 内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」

(注) なお、インターネット上のトラブルなどの経験について、「あてはまるものはない」という回答は、小学校4～6年生で全体の81.5%、中学生で60.4%、高校生で42.9%という結果であった。